

浮御堂

浮御堂は満月寺の一部で、琵琶湖屈指の景勝地です。この「浮かぶ東屋」は木造建築で、湖につながる木造の橋の先端にあります。水面位浮かんでいるかのように見えるお堂は、源信（942-1017 年）により、湖上の交通安全祈願のために建てられました。浮御堂は 1934 年の台風で大きな被害を受けましたが、1937 年に再建され、1982 年に改修されました。

浮御堂の風景は、多くの芸術家に刺激を与えています。夕暮れ時に東屋の上を雁が降りてくる様子は、伝統に則って選ばれた近江国（現在の滋賀県）の景勝地「近江八景」のひとつで、歌川広重（1797-1858 年）が描いたことでもよく知られています。俳人・松尾芭蕉（1644-1694 年）はこの寺を何度も訪れ、お堂にかかる月を見て俳句をしたためました。

満月寺は、平安時代（794-1185 年）末期に創建されたとされ、慈悲の菩薩である観音菩薩を祀っています。この寺の観音堂には、重要文化財に指定されている平安時代の観音像が安置されています。